

『建築職 パーフェクト演習講座 建築材料・施工』(KU22476)

訂正表

2023年5月2日現在

ページ	訂正箇所	訂正内容	掲載日
P. 39	No. 68 問題文 問題肢㉞, ㉟, ㊱	<p>我が国における防水工事に関する記述㉞～㊱の正誤の組み合わせとして最も妥当なのはどれか。</p> <p>㉞ アスファルト防水に用いる溶融アスファルトの溶解温度は、軟化点温度に170℃を加えた温度を上限にし、かつ、200℃以下とならなければならないように管理する。</p> <p>.....</p> <p>㉟ アスファルト防水に保護コンクリートを採用する際、コンクリートの伸縮目地は5m間隔に設け、かつ、パラペットなどの立ち上がり部から600mm以内に最初の目地を設ける。</p> <p>.....</p> <p>㊱ マスキングテープは、シーリング目地の施工において、目地の周辺を汚さず、かつ、目地の通りを良くするために用いるもので、シーリング材の打設後、軟化する前にはがす。</p> <hr/> <p>我が国における防水工事に関する記述㉞～㊱の正誤の組合せとして最も妥当なのはどれか。</p> <p>㉞ アスファルト防水に用いる溶融アスファルトの溶解温度は、軟化点温度に170℃を加えた温度を上限にし、かつ、200℃以下とならないように管理する。</p> <p>.....</p> <p>㉟ アスファルト防水に保護コンクリートを採用する際、コンクリートの伸縮目地は5m間隔に設け、かつ、パラペットなどの立ち上がり部から600mm以内に最初の目地を設ける。</p> <p>.....</p> <p>㊱ マスキングテープは、シーリング目地の施工において、目地の周辺を汚さず、かつ、目地の通りを良くするために用いるもので、シーリング材の打設後、硬化する前にはがす。</p>	2021/02/09
P. 61	No. 46 解説肢2	<p>誤 2 × 山留め支保工の支柱は、乗り入れ構台の支柱として兼用できる。</p> <p>正 2 × 山留め支保工の支柱は、荷重などに対する安全性を確認した上で、乗り入れ構台の支柱として兼用できる。</p>	2016/03/16
P. 63	No. 50 解説肢C	<p>誤 C × 溶接は気温が0℃以下では行わない。ただし、溶接部より100mmの範囲の母材部分を36℃以上に加熱する場合はこの限りではない。</p> <p>正 C × 作業場所の気温が-5℃未満の場合は、溶接を行わない。作業場所の気温が-5℃以上5℃以下の場合は、溶接線から100mm程度の範囲を適切な方法で加熱して、溶接を行う（建築工事標準仕様書 JASS6、公共建築工事標準仕様書(建築工事編)）。</p>	2020/06/22
P. 64	No. 54 解説肢5	<p>誤 5 × 溶接は、気温が0℃を下回る場合には行ってはならない。</p> <p>正 5 × 作業場所の気温が-5℃未満の場合は、溶接を行わない。作業場所の気温が-5℃以上5℃以下の場合は、溶接線から100mm程度の範囲を適切な方法で加熱して、溶接を行う（建築工事標準仕様書 JASS6、公共建築工事標準仕様書(建築工事編)）。</p>	2020/06/22

P. 66	No. 59 解説肢D	誤	D × 大ばり下端筋の定着は、柱へ上向きでも下向きでもよい。	2020/04/23
		正	D × はりの下端筋は、上向きに定着させる。鉄筋の納まりの都合上、やむを得ず下向きに定着させる場合は、折曲げ内側に発生する圧縮力を下柱で負担することになるため、下柱に帯筋を多く配するようにする。	

※「掲載日」は、上掲訂正情報がLECホームページの『公務員 テキスト改訂・修正情報一覧』(<http://www.lec-jp.com/koumuin/info/teisei/>)に掲載された日付です。